



高品質の整備で 飛行機の安全を担保

MROとは「メンテナンス・リペア・オーバーホール」の略で、格納庫を使った航空機体の点検・整備・改修のこと。例えばおよそ2年毎に実施する分解・点検を伴う整備は60人体制で約10日間かけて行われます。現在、アジアでは中国を筆頭にインドネシアやフィリピンなど各地にMROサービス専門企業が勃興し、日本の航空会社も保有機体の整備の多くをこれら海外MRO企業に委託しているのが現状です。

そうしたなか日本を代表する航空機整備の専門会社として平成27年(2015年)に設立されたMRO Japan株式会社は、廉価な海外MROに対し「ジャパンクオリティ」で対抗。大阪国際空港では全日空をはじめPeach Aviation、ソラシドエア、アイベックスエアラインズ、バニラエアなど国内LCC各社とも契約を交わし、高品質の航空機整備サービスを提供しています。

●MRO Japan株式会社
箕輪3-18-1

新しい音楽シーンを生み出す

株式会社ノースサウンド 夕日丘2-17-1

ゲームや遊技機などのサウンド制作で多数の実績をもつ株式会社ノースサウンド。代表の中沢昭宏さんを中心に音楽好きのスタッフが、BGMから効果音やジングルまで、あらゆる音楽の作曲・アレンジを行っています。

当社がいま一番力を入れているのは、オリジナルレーベルを立ち上げて、アーティストとアイドルグループを育てること。アーティストから楽曲のコンセプトづくり、プロモーション企画など、いままでも経験したことのない業務はとて大変だけれどやりがいがあるとのこと。現在は、オーディションで合格したアーティストの個性を活かした楽曲の制作中で、冬からはアーティストのデビューに合わせ、プロモーション活動を本格化させる予定です。自ら育てたアーティストたちが活躍する日を夢見て、新しい曲づくりにも余念がありません。

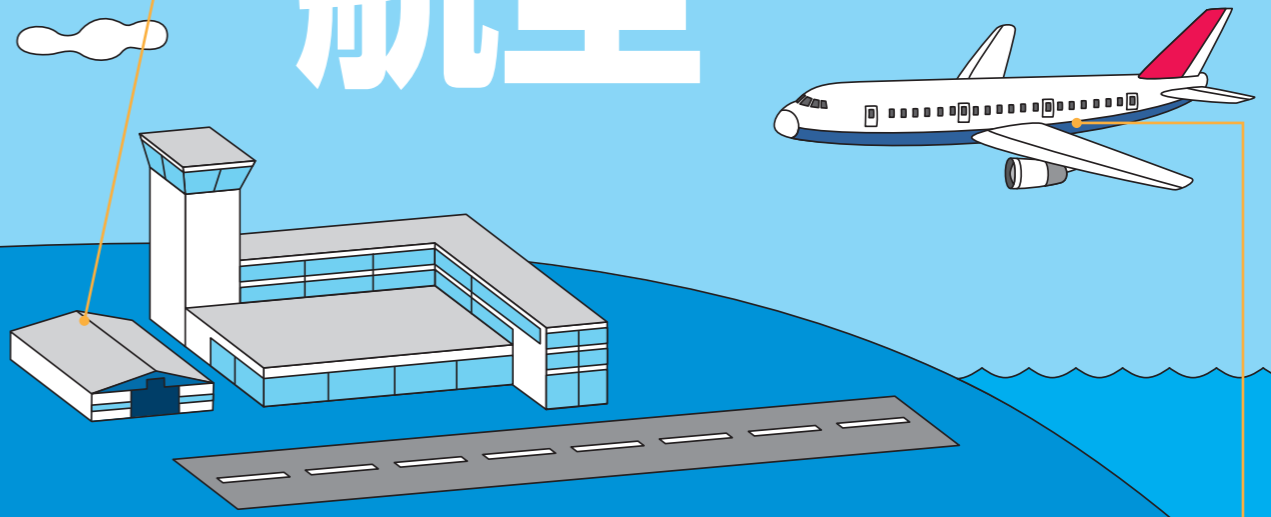


事務所内では、ひとりずつのブースで楽曲制作にいそむ



「北摂」を意識した方位記号と音楽のウェーブを組み合わせたオリジナルレーベルのロゴマーク

航空



国内線就航第1便の機内食調製

株式会社朝日エアポートサービスは、昭和26年(1951年)、日本航空国内線第1便大阪〜東京間の機内食を調製した老舗企業。現在は、大阪国際空港に隣接する工場で、毎日ほぼ24時間体制でつくられています。

すべての食材は、調理中の厳しい衛生管理に加え、梱包状態や冷蔵・冷凍品の温度まで厳重にチェックされ、食の安全には細心の注意を払います。一方、有名料亭が監修するメニューでは、何度も料亭に向いて料理の出来上がり工夫するなど、おいしさは当然のこと、季節感や見た目の美しさでも乗客に喜んでいただける機内食づくりに取り組み、空のひとときを彩ります。

●株式会社朝日エアポートサービス
箕輪3-2-7



お弁当スタイルの機内食もあります



特殊トラックで機体に接着させ、機内用品・機内食を積み込みます

文化施設やイベントを魅力的に演出

株式会社コタキクリエイティブワークス 三和町3-7-38

主に家電小売店の内装工事を行う工務店が、株式会社コタキクリエイティブワークスの始まり。父親が立ち上げた会社を現社長の小滝祐一さんが手伝うことになり、次々と新しい大工仕事の需要を開拓していきました。

現在は、イベントの装飾・展示会のディスプレイを中心に文化施設の内装一式も手掛け、木工だけでなく多種多様な素材を使って、施設やイベントの目的に合った空間を創り出します。イベントなど非日常空間の楽しさや期待感を演出するために常に新しいアイデアや情報を集めて、来場者がワクワクするような空間づくりをめざし、日々奮闘が続きます。



新梅田シティクリスマスイルミネーション、アクアリウムイベントなどで来場者にサプライズを提供



東海・近畿地方を舞台に愛車のクラシックカーで走るイベント「ラ・フェスタプリマベラ」は、芸能人・著名人も多く参加することで有名。設営すべてと運営の一部を担当します